

(3) 自然条件

[日照について]

ア. 敷地周囲の状況

①山間部であるため日照条件は平地に比べ基本的に厳しいものとなる。

日の出が遅く、日没が早くなる。

但し、当敷地に関しては朝日、夕日の方角に谷があるため、山間部にしては比較的有利な状況となっている。

②当地の日中における影のほとんどは、南側にせまっているがけ・山によるもので、それ以遠の山からの影響ではない。(【付図-3-①】参照)

イ. 日照の検討(【付図-3-②、③、④】参照)

①冬至(9:00~16:00間の検討)

: おおよそ12:00以降に敷地の過半以上が影になる。

(東西比較では、西側の区域で11:00以降大半が影になり、東側で12:00以降で大半が影になる。)

②春秋分(9:00~16:00間の検討)

: おおよそ12:00~13:00以降に、敷地に影が落ちてくる。

(東西比較では、西側の区域で13:00以降過半が影になり、東側で13:30頃過半が影になる。)

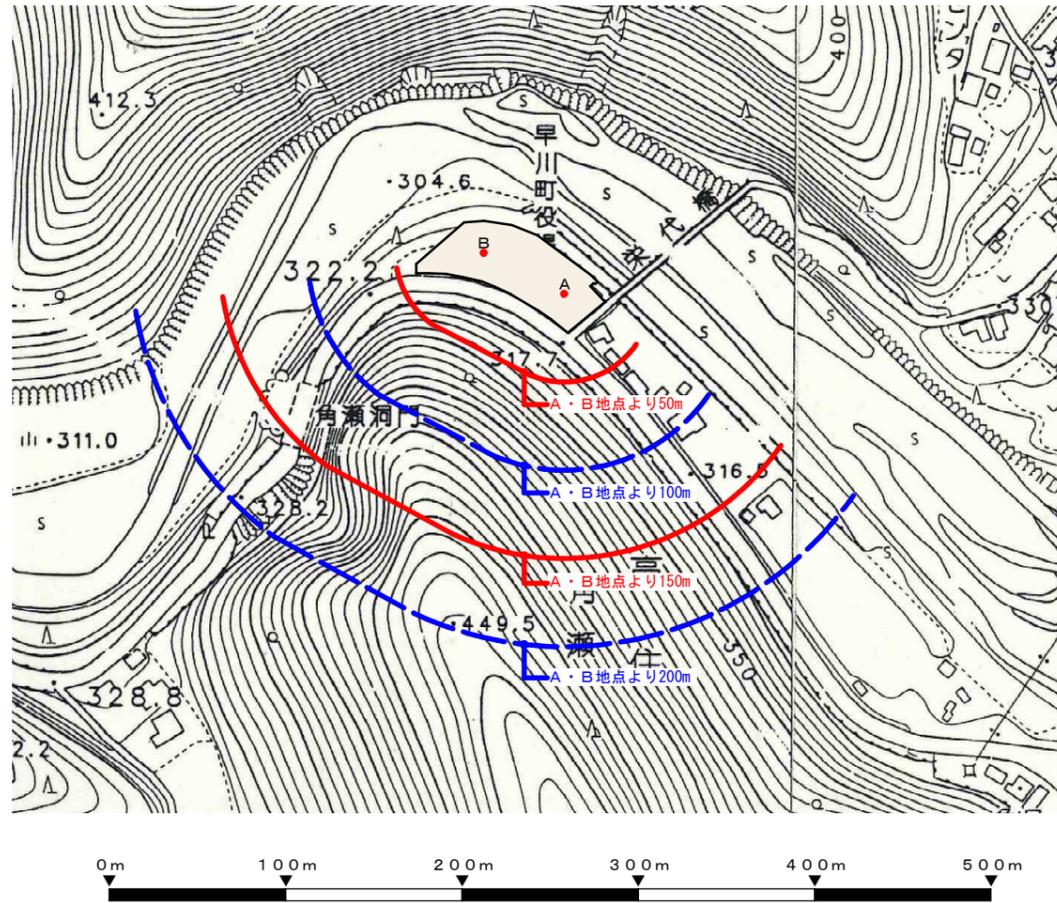
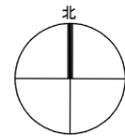
③夏至(9:00~16:00間の検討)

: 敷地に影は落ちない。

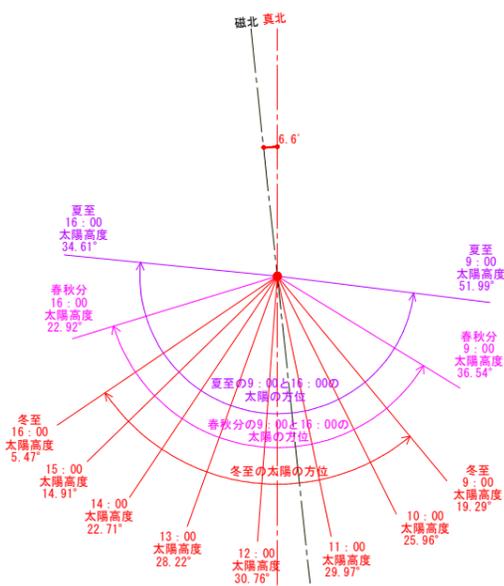
④まとめ

: 東西比較では、上記の通り、西側の区域がやや不利な傾向となっているが、原因が山という大きなスケールであるため、敷地のスケールでは東西格差は大きなものにはならない。

【冬至における日射と山の斜面の関係】



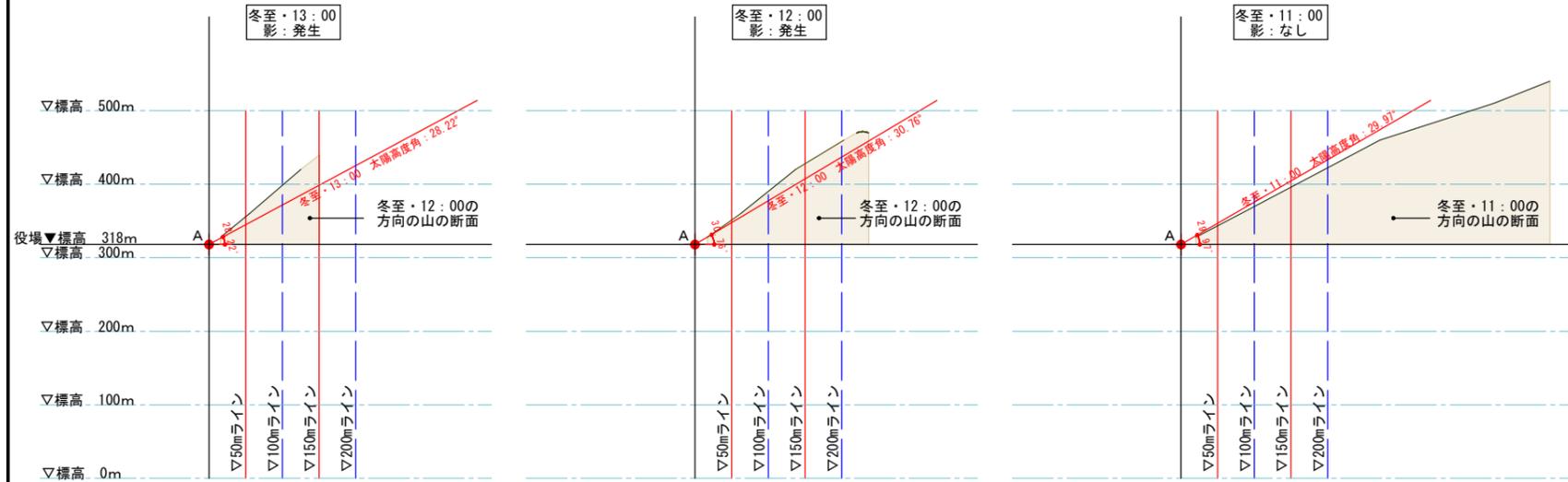
【太陽方位と高度角】



【磁北の測定】
 国土地理員 地磁気測量
 磁気図2010.0年値より

緯度	35° 41' 27"
経度	138° 36' 32"
偏角	6° 6' (西偏)
伏角	49° 31'
全磁力	46442nT
水平分力	30152nT
鉛直分力	35323nT

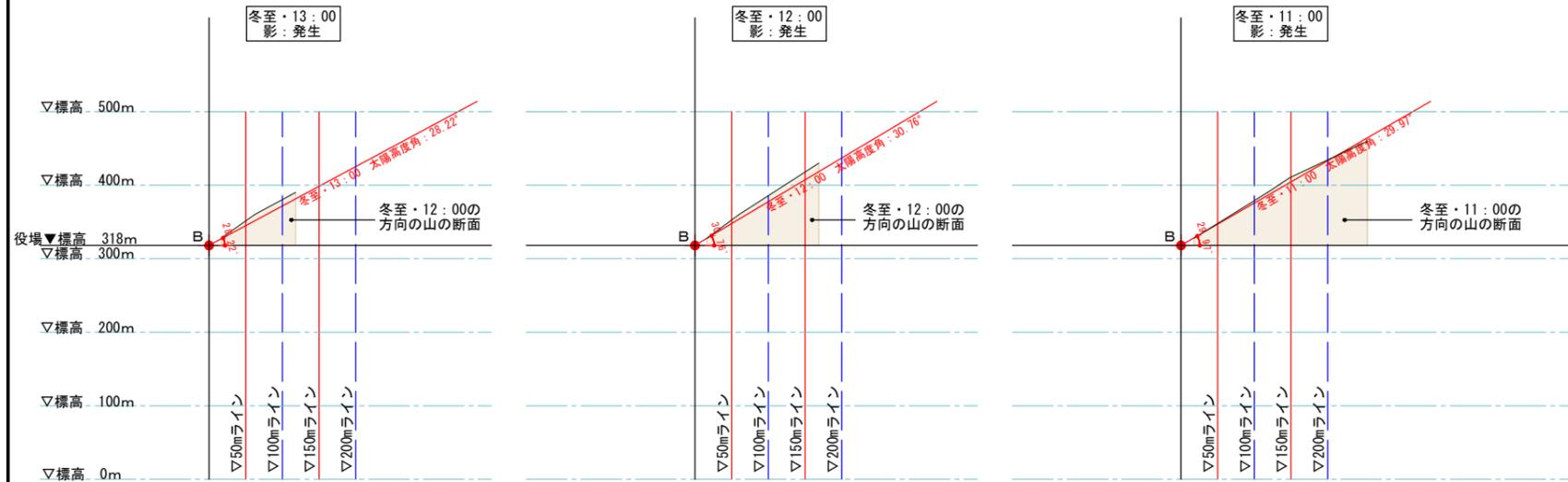
【A地点での検証】



【冬至 9:00~16:00】・・・A地点

A地点においては11:00頃までの太陽高度角は山の斜面形状より高いため、山の影響による影は発生しない。12:00頃になると、A地点より50m付近で山の斜面形状が太陽高度角を上回るため影が始まる。

【B地点での検証】



【冬至 9:00~16:00】・・・B地点

B地点から約50m付近の山の斜面形状と、11:00の太陽高度角はほぼ同じだと分かる。よってB地点は11:00頃から影が始まる。

【山の影について検証結果】

【敷地全体】

- この敷地における影は南側にせまっている直近のがけ及び山（A・B地点より約50m）の影響によるものである。
- 山間部の朝夕は、山による日影によって日照が短くなるが、当地は朝日の東方向、夕日の西方向に谷があり、位置的に比較的有利な場所となっている。

【敷地内、東西の違い】

- 敷地と直近の山の地形・勾配の関係で、東側に比して西側で日影が早く始まる傾向となる。